

幼稚園・小中学校施設の耐震化の状況について

愛南町教育委員会・篠山小中学校組合教育委員会

幼稚園・小中学校耐震化の状況（平成28年4月1日現在）

学校別	全校数	全棟数 A ※1	昭和57年以降 建築の棟数 (新耐震) B	昭和56年以前建築の棟数（旧耐震）			耐震化率 F=(B+C)/A	耐震診断実施 済みの棟数 G	耐震 診断率 H=G/E	
				健全建物及び 補強済建物の 棟数 C	耐震性がない 建物の棟数 D ※2	計 E				
愛南町	小学校	14校	34棟	25棟	9棟	0棟	9棟	100.0%	9棟	100.0%
	中学校	4校	13棟	7棟	6棟	0棟	6棟	100.0%	6棟	100.0%
	小中学校計	18校	47棟	32棟	15棟	0棟	15棟	100.0%	15棟	100.0%
	幼稚園	1園	0棟	—	—	—	—	—	—	—
	合計	18校1園	47棟	32棟	15棟	0棟	15棟 ※3	100.0%	15棟	100.0%
篠山小中学校組合	小学校	1校	1棟	1棟	—	—	—	100.0%	—	100.0%
	中学校	1校	0棟	—	—	—	—	—	—	—
	合計	2校	1棟	1棟	—	—	—	100.0%	—	100.0%

※1 非木造の建物で、階数が2階建以上、又は延べ床面積200㎡を越える建物が対象。

※2 詳細な耐震診断により、耐震性が確認される可能性がある棟数も含まれる。

※3 学校施設耐震診断・補強状況一覧表のとおり。

学校施設耐震診断・補強状況一覧表

【平成26年4月1日現在】

	学校名	建物名称	構造	階数	建築年月	面積 (㎡)	診断年度	耐震診断の種類	診断結果		補強後耐震性能		補強完了年度	備考
									Is値	CT×SD値 (q値)	Is値	CT×SD値 (q値)		
1	家串小	屋内運動場	RC	2	S55.3	690	H16	2次診断	0.76	(1.69)	—	—	—	耐震性有
2	平城小	校舎	RC	3	S50.12	4,291	H9	2次診断	0.38	0.31	0.84	0.31	H10	耐震補強済
		屋内運動場	S	2	S52.3	1,148	H20	2次診断	0.42	(0.81)	1.19	(5.18)	H22	耐震補強済
3	緑小	校舎 (旧館)	RC	2	S41.3	818	H20	2次診断	0.49	0.54	0.75	0.81	H21	耐震補強済
4	僧都小	校舎 (旧館)	RC	2	S39.3	346	H20	2次診断	0.59	0.62	0.76	0.80	H23	耐震補強済
		校舎 (新館)	RC	2	S46.12	234								
		校舎 (中学校跡)	RC	1	S54.1	395	H20	2次診断	0.96	0.80	—	—	—	耐震性有
5	久良小	校舎	RC	3	S52.3	1,889	H20	2次診断	0.45	0.42	0.76	0.59	H22	耐震補強済
6	東海小	特別教室棟	RC	1	S50.3	377	H15	1次診断	0.91	0.40	—	—	—	耐震性有
7	御荘中	普通教室棟	RC	3	S54.3	2,208	H19	2次診断	0.34	0.44	0.71	0.59	H21	耐震補強済
		特別教室棟	RC	3	S55.3	1,468	H19	2次診断	0.31	0.40	0.71	0.56	H21	耐震補強済
		管理棟	RC	2	S55.3	1,235	H19	2次診断	0.76	0.47	—	—	—	耐震性有
8	城辺中	校舎	RC	3	S43.5	2,139	H10	2次診断	0.19	0.22	0.72	0.31	H12	耐震補強済
		特別教室棟	RC	3	S47.2	417	H10	2次診断	0.34	0.28	0.79	0.33	H12	耐震補強済
		屋内運動場	S	2	S43.12	1,233	H20	2次診断	0.34	(1.04)	0.71	(1.71)	H22	耐震補強済
合計 (8校) 計 (15棟)														

※この一覧表には、昭和56年6月の建築基準法施行令改正以前の旧耐震基準で設計された建物の状況を掲載し、昭和57年以降の新耐震基準で設計された建物の状況は掲載していません。

学校施設耐震診断・補強状況一覧表の用語説明

○ 構造

RC	鉄筋コンクリート造
S	鉄骨造

○ 耐震診断の種類

1次診断	鉄筋コンクリート建築の柱や壁の断面形状、鉄筋量の詳細、材料強度から算定する簡易な診断方法
2次診断	柱・壁・コンクリート強度・鉄筋量等から建物の強さと粘り（地震力を受け流せる能力）を推定する診断方法。耐震補強内容を検討し、設計を行うための詳細な診断方法。

○ Is値・q値・CT×SD値

Is値	1次診断又は2次診断の結果、建物の粘り強さに形状や経年等を考慮して算出される構造耐震指標で、その最小値を表記しています。値が大きいほど耐震性が高いことを示しています。なお、1次診断のIs値は、より詳細な2次診断の値と差違が生じるため（ ）書きで表記しています。
q値	保有水平耐力に係る指標で、その最小値を標記しています。1.0以上であれば倒壊や崩壊の危険性が低く、1.0未満では危険性があるとされています。
CT×SD値	建物形状と累積強度により地震による水平方向の力に対して建物に対応する強さを表す指標で、その最小値を標記しています。Is値が高くてこの値が低い場合は安全としない目安です。CT×SD値が1.25以上ではIs値が低くても安全とし、0.3以下ではIs値を満足しても安全としません。

○ Is値に応じた地震に対する安全性の目安（平成18年1月25日国土交通省告示第184号による）

0.3未満	大規模な地震の震動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性が高い。
0.3以上 0.6未満	大規模な地震の震動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性がある。
0.6以上	大規模な地震の震動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性が低い。

※耐震改修促進法の基準では、Is値0.6以上で耐震性能を満たすとされますが、学校施設については、児童・生徒の安全性、避難場所としての機能性を考慮し、Is値0.7以上を確保する必要があります。

※大規模な地震とは、震度6強から震度7程度の地震を想定しています。